

パール一丁からはじめて30年、 お客様が喜ばれる仕事を。



千田社長

千田工業株式会社

(愛知県高浜市)

JR武豊線沿いの水田地区に立地する千田工業株式会社の衣浦処分場に伺い、千田社長にいろいろお話をさせていただきました。

—いつ頃からこの仕事に取り組みられるようになったのですか。

千田社長（以下千田に略）『当社は総合解体を主な事業内容にしておりますが、私が解体に携わるようになってから30年程になります。』

—機械化されているいまの仕事と違い、創業当初はどのように仕事を行っていたのですか。

千田『当時はもちろん、いまのように便利ではありませんから、パール一丁で解体を行うわけです。大変といえば大変でしたね。また、解体物から出た柱などで比較的新しく使えるようなものがあると買い主が坪500～600円程で購入したものを解体業者が解体費を坪2,000円程いただいて、後で部材として再利用していました。』

—現在も解体時に家屋の柱などが出ますが、同じようにされているのでしょうか。

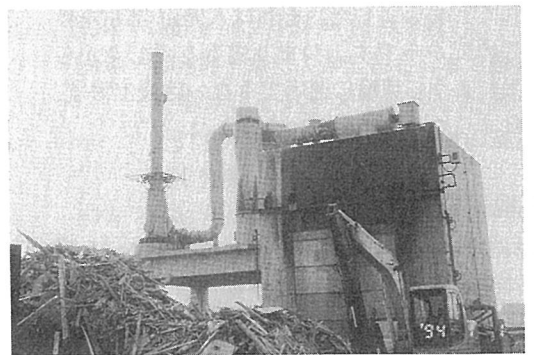
千田『現在はよほどのことがない限り部材としては使いません。ただ、リサイクルの意味では行っているといえますね。木で太いものはチップ原料用に業者さんに無償で渡しています。細かいものやチップに適していないものは焼却しています。コンクリガラは破碎して再利用に回しています。この他に、解体から出るものでは瓦やタイル、ガラス、モルタル、土壁などの混合物がありますが、これは何ともなりませんので現在埋立処分に戻しております。』

—焼却や破碎のお話が出ましたが、ここの処分場でそれぞれ行われているのですか。

千田『この衣浦処分場には焼却施設を備えてい

ますので、能力内の量であればここで処分しております。ここは近くに民家がほとんどありませんから、気兼ねなく行うことができるのでありがたいですね。』

—では、今後事業を拡大される予定はありますか。何か計画されていることはありますか。千田『息子と一緒に仕事をしていますので、少しづついろいろな面で拡大し、処分場内の塀の色を塗り直したり、作り直したりして、より能率的な処分場にする予定です。この仕事は3Kの典型ではないと思いますし、きれいな職場であれば仕事もきちんとできます。当然能率も上がるはずですが、また、ここ以外に資材置場を持っておりまして、そこに置く資材等も常時きちんと整理整頓しています。これからの時代は変なことをしていると業として続かないので大変ですね。』



社名/千田工業株式会社 所在地/愛知県高浜市二池町1丁目6番地21
代表者/千田盛一 創業/昭和48年 従業員/16名 TEL/0566(53)2140
事業所/本社、衣浦処分場、東浦資材置場
営業種別/収集運搬、中間処理(焼却) 取扱い品目/燃えがら、廃プラスチック類、木くず、ガラスくず及び陶磁器くず、建設廃材